

(特非) アサザ基金

NPO・学校・地域協働型環境教育実践モデルの開発と普及

イベントの延べ参加者数	10,779人
イベント参加者の満足度	95%
活動の全体目標に対する達成度	95%



自分達で作ったお茶を広めるためには？

◆成果と工夫したポイント

●成果

環境教育の実践数は、平成 25 年度 154 回 10,413 人、平成 26 年度 153 回 11,188 人、平成 27 年度 166 回 10,779 人と目標値を超えた。アンケートでも 95% の児童が楽しかったと答え、指導者のプログラム評価も好評だった。

●工夫

補助指導者や作成した事例集を活用、実践校や地域支援者、行政との情報交換や協働体制の構築に役立てた。

課題

現在の環境学習は地域性、子どもの提案能力や多様な主体の協働の視点が欠如している。そこで地域の課題と地域資源を生かしながら解決していく子どもの育成が急務である。

目標

自然環境の悪化や少子高齢化等の課題を地域資源を生かしながら解決し、生き物とともに生きる社会づくりや、地域づくりに参加する子どもを育成するプログラムを開発し、この学習の持続発展を目指し事例集を作成する。

活動内容

NPO・学校・地域協働型環境教育を八郎湖流域、南三陸、霞ヶ浦流域、東京都、長野県、三重県、北九州市、沖縄県の小中高・大学・児童保育・社会教育で実践した。実践モデルの開発では、「アサザプロジェクト出前授業の環境学習事例集」「地域環境学習事例集」「アサザプロジェクト学習展開事例集」地域が発する問いと向き合う学習」を作成し協働体制の構築と普及に役立てた。アンケートや聞き取り調査でプログラム評価を行った。

達成できなかったこと

当該学校の年間計画や行事等で調整調節ができなかったり、担当者の異動のため、3年間継続して実施できなかった学校や、テーマを通じた活動が難しかった学校があった。

今後の展望

実践校の活動の継続、3年間の知見を生かしたプログラム開発を行い、プログラムの継続・拡大化を図る。



お茶摘みツアーを企画し記者発表しました